

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

自然と親しむまちづくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

栃木県、大田原市

3 地域再生計画の区域

大田原市の全域

4 地域再生計画の目標

大田原市は、栃木県北東部に位置し、豊かな森林と風光明媚な農村地帯で、農林業を基幹産業とした田園工業都市である。

当地域は、植物の群生地（ザゼン草群生地、福寿草群生地、水芭蕉群生地）があることでも知られているところである。さらに南部においては、平坦な土地を活かした酪農や関東の「四万十川」と呼ばれるほど水のきれいな那珂川や箒川での鮎釣りが有名であり、自然とともに共生している地域でもある。

平成17年10月1日に大田原市は合併（旧那須郡湯津上村及び旧那須郡黒羽町を廃し、その地区を大田原市に編入）し、新市の将来像、地域の目標像を実現するため、8つの基本政策を掲げている。本地域再生計画は、その中の一つである「自然と共生していくまちへ」を目標として、自然と暮らしが調和した田園風景や憩いの空間づくりを進める計画である。本エリア内には、八溝県立自然公園（旧黒羽）をはじめ、ふれあいの丘（大田原）、なかがわ水遊園（旧湯津上）、雲巖寺、黒羽城址公園（旧黒羽）、道の駅「那須与一の郷」（大田原）など、自然とふれあい、また、満喫できる施設を有しているが、ホームページやパンフレット等で各施設のPR活動を行っても各施設の宿泊、入場及び来場者数は年々減少している状況である。近年、インターネットを利用して観光施設等をあらかじめ調査し、カーナビ等で目的地を検索して移動するため、交通量が幹線道路に集中する傾向があり、また、この地域における日帰りの観光客は増加しているため、それぞれの地域や施設への移動時間短縮はPR活動と並び観光客増加への重要課題であると考えられる。

そこで、道整備事業を導入することによって、那須塩原駅からふれあいの丘、西那須野塩原ICからなかがわ水遊園、（主）大田原氏家線からふれあいの丘、ふれあいの丘からなかがわ水遊園、ふれあいの丘から黒羽城址公園、黒羽城址公園～八溝県立自然公園～雲巖寺～黒羽城址公園、那須塩原駅からなかがわ水遊園、那須塩原駅から黒羽城址公園、西那須野塩原IC～道の駅「那須与一の郷」～黒羽城址公園などの区間にスムーズなアクセス効果を提供し、日帰り観光客をターゲットとした各施設（ふれあいの丘、なかがわ水遊園、黒羽城址公園、雲巖寺、道の駅「那須与一の郷」）でのイベントが集中する夏季（7月～9月）の観光客入込人数（平成16年度実績人数）の5%増（平成22年度実績人数）を目指すとともに自然と親しむまちづくりを行うこととする。このように林道への入込者も多く、近年自然

環境に対する意識も向上していることから林道八溝縦貫線・稗畑入小滝線を整備し、地元
に健全な森林を提供するとともに自然と親しむまちづくりを行うこととする。

(目標1) ふれあいの丘、なかがわ水遊園、黒羽城址公園、雲巖寺、道の駅「那須与一の郷」
の集客率向上

- ・各施設のイベントが集中する夏季(7月～9月)の観光客入込人数(合計)(平成16年度実績人数)の5%増(平成22年度実績人数)

(目標2) 拠点施設へのアクセス改善

- ・那須塩原駅～ふれあいの丘(市街地通過5分短縮)
- ・西那須野塩原IC～なかがわ水遊園(親園地区通過5分短縮)
- ・(主)大田原氏家線～ふれあいの丘(佐久山地区通過3分短縮)
- ・ふれあいの丘～なかがわ水遊園(福原地区及び蛭田地区通過5分短縮)
- ・ふれあいの丘～黒羽城址公園(新宿地区通過3分短縮)
- ・黒羽城址公園～八溝県立自然公園～雲巖寺～黒羽城址公園(観光周遊道路として木佐美地区通過15分短縮)
- ・那須塩原駅～黒羽城址公園(羽田地区通過3分短縮)
- ・西那須野塩原IC～道の駅「那須与一の郷」～黒羽城址公園(南金丸地区通過5分短縮)
- ・那須塩原駅～なかがわ水遊園(奥沢地区通過3分短縮)
- ・国道4号～ふれあいの丘(実取地区通過3分短縮)

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

大田原地区の通称ライスライン「市道1-20号線」(市道認定 昭和62年1月5日)は大田原市の外環状道路として、県北地区の農産物の流通や農業振興に大きな功績を残した路線の一つである。また、市道1-24,821号線(市道認定 昭和61年12月23日)は国道4号と市街地を結ぶ幹線道路として位置付けられている。近年、通勤やレジャー等の交通手段に自家用車を利用する人が増え、これらの路線においてもその影響から交通量が増大している。そこで、本線を改築することにより、通過交通の増大に対応し、西那須野塩原IC及び国道4号からふれあいの丘及びなかがわ水遊園へのアクセス向上(時間短縮)を図る。

市道1-23,2-18,2-33,2-35号線(市道認定 昭和61年12月23日)、市道中蛭田線(市道認定 昭和45年12月19日)、品川新宿線(市道認定 昭和43年3月19日)は、大田原地区の南西部に位置し、県道や国道とを結ぶ(ショートカット)路線である。各路線を整備することにより、国道、県道の交通渋滞の緩和を促し、ふれあいの丘からなかがわ水遊園、黒羽城址公園、八溝県立自然公園へのアクセス向上(時間短縮)などの効果を上げるとともに、効率的な観光ネットワーク道路を構築する。

市道 410 号線（市道認定 平成 14 年 9 月 24 日）市街地と那須塩原駅を結ぶ主要地方道大田原・高林線の補助幹線道路として位置付けされている。本路線を整備することにより、通過交通車両の分散化を図り、主要地方道大田原・高林線の渋滞を解消し、さらに、市道 278 号線（市道認定 昭和 61 年 12 月 23 日）を整備することにより、那須塩原駅からふれあいの丘へのアクセス向上（時間短縮）を図る。

市道木佐美・南方線（市道認定 昭和 53 年 3 月 27 日）林道八溝縦貫線、稗畑入小滝線（那珂川地域森林計画（H13～H23））を整備することにより、林業の振興及び八溝県立自然公園への集客増、黒羽城址公園、雲巖寺へのアクセス向上（時間短縮）を図る。

市道 2-8,2-26,504 号線（市道認定 昭和 61 年 12 月 23 日）は大田原市の中西部に位置し、国道や県道を結ぶ（ショートカット）路線である。本路線を整備することにより、国道、県道の交通渋滞の緩和を促し、那須塩原駅から黒羽城址公園、八溝県立自然公園、なかがわ水遊園及び西那須野塩原 IC から黒羽城址公園、八溝県立自然公園へのアクセス向上（時間短縮）を図るとともに、道の駅「那須与一の郷」への集客増を図る。

5 - 2 法第 4 章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

整備箇所等は、別添の整備箇所を示す図面による。

- ・実施主体 市道 大田原市
林道 栃木県
- ・施設の種類 市道
林道
- ・事業区域 市道 大田原市
林道 大田原市
- ・事業期間 市道（平成 17 年度～平成 21 年度）
林道（平成 17 年度～平成 20 年度）
- ・事業費 総事業費 4,440,000 千円（うち交付金 2,220,000 千円）
市町村道 4,110,000 千円（うち交付金 2,055,000 千円）
林道 330,000 千円（うち交付金 165,000 千円）
- ・整備量 市道 20.94 km
林道 2.37 km

5 - 3 その他の事業

まちづくり交付金事業（旧黒羽）平成 16 年度～平成 20 年度

地域資源を活用して、「界隈性、回遊性、魅力性」をイメージコンセプトに、地域住民と共に愛着や誇りの持てる魅力あるまちづくりを行うことにより、地域の活性化を総合的に推進する。

6 計画期間

平成 17 年度～平成 21 年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

大田原市が、4に示す地域再生計画の目標達成状況について計画終了後に必要な調査（アンケート調査や施設の宿泊者数、入場者数、来場者数の調査及び交通量調査等）を行い、状況を把握・公表する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし